

1	議席番号 9 番 増田 剛士 議員	開始予定時間 1 2 月 1 1 日 午前 9 時
【自転車利用者の交通安全対策について】 令和 5 年 4 月に「ヘルメット着用の全自転車利用者への努力義務化」が施行された。令和 6 年 1 1 月からは、道路交通法の改正により、自転車に関する罰則の強化及び追加が、実施されている。 身近な移動手段の 1 つである自転車は、通勤・通学、ちょっとした買い物などで利用されている。近年ではアシスト付き自転車が、高齢者等にも体力消費が少なく動ける移動手段として利用されている。 しかし、ヘルメット着用率は、全国平均 17.0%で静岡県は全国で 2 2 位の 13.1%（警察庁 令和 5 年 7 月公表）であり課題となっている。これは、当町においても同様の課題であると推察できる。 自転車は軽車両であるという認識に欠け、自転車を運転することは、自動車、バイクと同じ様に大きな責任と危険が伴う事を理解することが重要である。自転車に関連する交通事故が増加傾向にある中、利用者は自らの身を守ることはもちろん、歩行者などとの事故を起こさないため交通ルールを遵守する必要がある。 自転車に関する道路交通法の改正を機に更なる交通安全対策を町として行っていくことが、安全・安心な町づくりの一つと考え、以下質問する。 (1) 自転車利用時のヘルメット着用率向上に対する取組みは。 (2) 自転車用ヘルメット購入に対する補助金を実施している自治体があるが、当町での導入の考えは。 (3) 小中学生の自転車利用時の交通安全指導と現状把握は。 (4) 高齢者への自転車利用に対する交通安全対策は。 (5) 自転車利用者全体への交通安全対策として町が取組む施策は。 (6) 町道への「自転車ナビマーク」「自転車ナビライン」等の設置及び幹線道路の自転車レーンの設置は。		

2	議席番号 7 番 平野 積 議員	開始予定時間 12月11日 午前10時
【吉田町子ども読書活動推進計画について】 9月定例会の町長の行政報告で「本を読まない子どもの割合が増加する中、読解力の強化や子育て支援施策との連携により様々な読書活動を推進するため『子どもの読書活動の推進に関する法律』に基づく『吉田町子ども読書活動推進計画』の策定を進めております。今後はアンケート調査を実施するとともに、町独自の視点を盛り込みながら来年3月の完成を目指して策定を進めてまいります。」と述べられました。 しかし、政府はこの法律に基づき、平成14年8月に第一次基本計画を策定し、「全ての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所で自主的に読書活動を行える環境整備」を基本理念として取り組んできました。 そこで、以下の点について質問します。 (1) 静岡県内で「子ども読書活動推進計画」を策定していない市町はどこか。 (2) 政府が第一次基本計画を策定してから20年以上が経過している中で、今「吉田町子ども読書活動推進計画」を策定するに至った背景および経緯は。 (3) 本計画の目指す理想像や具体的な目標は。また、子どもたちの読書活動を推進する上で、最も重視している課題は。 (4) 「町独自の視点」とは具体的にどのような視点か。 【避難所運営について】 9月定例会における一般質問の答弁で「大規模災害時の避難所運営は自主防災会や避難所運営組織による住民主体の運営体制が構築できるよう、避難所運営マニュアルを見直し、訓練などを通じて、地域との調整や連携を図っていく。」と述べられました。 また、再質問では、能登半島地震発生時に避難所運営の補助として派遣された職員の「コミュニケーションが大切」との発言について、私は「自治体職員と住民とのコミュニケーションが大切である。」と理解していましたが、答弁では「住民間のコミュニケーションが大切である。」という趣旨であるとの説明がありました。 そこで、以下の点について質問します。 (1) 県が作成している避難所運営マニュアルと比較し、どのような吉田町独自の工夫や特徴的な要素を取り入れる予定か。		

- (2) 吉田町の避難所運営組織はどのような体制を考えているか。
- (3) 住民主体の避難所運営体制構築のために、どのような訓練などを行う予定か。
- (4) 避難所生活において、住民同士のコミュニケーションが大切であると感じた理由は。また、住民間の円滑なコミュニケーションを促進させるために、町としてどのような施策を実施する予定か。

3	議席番号 4 番 楠元 由美子 議員	開始予定時間 1 2 月 1 1 日 午前 1 1 時
【吉田漁港多目的広場の整備について】 シーガーデンの中央に位置する「多目的広場」は、駿河湾を一望できる憩いの場として、芝生広場、駐車場、トイレなどが整備され、新たな魅力のスポットになりつつあります。1 1 月、この広場へつながる進入路の開通により、自動車や大型バスでも来訪可能となり誰もが訪れやすいスポットとなりました。開通早々、地元地区主催のウォークラリーイベントや県民スポーツ・レクレーション祭の開催があり、自動車等での来訪が可能となったことが町内外へ周知されるとともに、町が整備方針とした地域住民の活動・交流の場となったことを実感しました。 一方で、令和 2 年 5 月の町政連絡会で配布された整備計画図面の中では、展望テラス・健康遊具・四阿なども示されておりましたが、現在は設置されておられません。また、第 2 期吉田町まち・ひと・しごと創生総合戦略の施設整備目標は 1 0 0 %でしたが、令和 5 年度決算での施設整備率は 4 2 . 1 %にとどまり、水産振興の発展、漁港の賑わいの創出や、まちの防災機能強化に資する場とする整備方針に向けた町の今後の取り組みが気になるところであります。 そこで、以下の点について、質問します。 (1) 施設整備目標 1 0 0 %は、いつ達成の見込みなのか。 (2) 町が目指す水産振興の発展と漁港の賑わいの創出とはどのようなものか。 (3) 町が目指すまちの防災機能強化に資する場とはどのようなものか。		

4	議席番号 10 番	八木 栄 議員	開始予定時間 1 2 月 1 2 日 午前 9 時
【消防団の運営について】 静岡地域消防救急広域化によって消防・救急体制が強化され、以前に増して日常生活での安心を感じています。その半面と言いますか、地元消防団においては、私が入団していたころと比べると、時の流れと共にその様子も変わってきています。 消防活動を主に行なってきた消防団であると思いますが、最近の自然災害（豪雨による災害や、今後起こりうる震災）を考えると、今後、これらに対する消防団の活動が重要になってくると思います。いざ、というとき頼りになる消防団としての活動を願い以下質問します。 (1) 現在、消火訓練を主に行っていると思うが、自然災害に対する訓練についてはどの様に考えているか。（水防等） (2) 消防団協力事業所表示制度があるが、現状その成果は。 (3) 消防団員の定数 150 人に対し、現状 120 人程度であるが、団員を増やすための考えは。 (4) 今後、町として消防団に期待するものは。 (5) (4)の答弁を遂行するために、町はどの様な支援をするのか。			

5	議席番号 8 番	山内 均 議員	開始予定時間 12月12日 午前10時
【最大震度7の大地震への対策と対応（第2弾）について】 前回の9月議会の一般質問では、南海トラフ地震臨時情報に対する対策及び対応について聞いた。「商業施設との物資供給に関する協定」の締結は、被災後の命を守る重要な役割と確信している。重要課題として大切に運用してほしい。しかしながら、過去の事例に見える巨大地震の地殻変動などによる被害は必ず発生するものとして対策を考えてほしい。数か所の被災地を視察して強く感じた。 近年、最大震度7の地震が連続して発生している。2024年1月、能登半島地震、M7.6（資料1：地盤の隆起4.0m、1.3mの地盤の変動）。2018年4月、熊本地震・M7.3。2011年3月、東日本大震災・M9.0（資料2：南三陸町・地盤沈下0.69mによる水没）。1995年1月、阪神・淡路大震災・M7.3（地殻変動による地盤のずれ）。 令和6年8月8日に発生した、日向灘を震源とする震度6弱の地震発生に対し気象庁は南海トラフ地震臨時情報を発信した。とうとう来たかという危機を感じた。 地殻変動や土地の液状化はライフラインに想像をこえる被害をもたらす。災害は必ず起きることを前提に対策を考え、その上で町民の命および生活を守るための準備と対策が必要であると考えます。 そこで質問する。 (1) 地震による建物やインフラへの被害想定について。 ① 能登半島地震での被害は地殻変動による地震動と建物の構造に原因があると思う。被害を最小限にするための補助などの対策は今までと変わらないか。 ② 過去の事例でしか想定はできない。大地震では質問の要旨に示す通り、地殻変動による地盤の隆起、沈下、ずれが起きている。前回質問の答弁では、上水道も下水道も被災に対応しているとのことであった。被災することが前提での災害対策を考えるべきと思うが、被災しない根拠は示されるのか。 (2) 避難所や自宅での避難生活について。（資料3）タンク式水洗トイレ。 ① 避難所でのマンホールトイレを設置しないところの対応と設置計画は。 ② ①以外及び自宅でのトイレは、浄化槽による水洗化は可能であると思う。水タンク一体型のレバー式のトイレは、レバーの操作だけで使用できる。上水道はいらない。生活用水だけでいい。ただし、ブローアで層内を攪拌するのに電気は必要だが、小型の太陽光電池で賄える。仮設トイレによるストレスは感じなくなる。この水タンク一体型のレバー式のトイレの導入及び推奨は。			

(3) 商業施設との協定締結について

前回の９月議会の一般質問で、巨大地震など災害時に住民の命を支える生活物資を供給していただく商業施設との「災害物資支援協力に関する協定」の締結内容では、町からの要請に対し、直ちに納入されるとの答弁があった。

- ① 町民からの必要物資の要望はどのように受け入れるのか。
- ② 要請から配給までの順序と期間など図式マニュアルの作成は。

6	議席番号 1 番 大石 裕之 議員	開始予定時間 12月12日 午前11時
【不登校の児童・生徒について】 〔質問の要旨〕 先月10月31日に文部科学省が発表した「令和5年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、不登校の児童・生徒の数が、11年連続で増加して34万6,482人となり、前年度から16%増えて、最多を更新してしまったという状況です。 静岡県内の状況を見ると、公立小中学校の不登校の児童・生徒数は11,524人で、初めて1万人を超えてしまいました。前年度比22%増で、全国と同じく11年連続の増加で過去最大を更新しています。 このような社会状況の中、当町の子どもたちのことを憂慮しています。そこで以下の点について質問します。 (1) 不登校の児童・生徒の現状は。 (2) 不登校の児童・生徒の存在をどのように捉えているのか。またその原因と分析、および対策は。 (3) 現在町が力を入れている ICT 教育を、不登校の児童・生徒の為にどのように活用しているのか。		